

令和4年度第3回寝屋川市男女共同参画審議会 会議録

日 時：令和4年11月15日（火）午前10時00分～午後12時00分

場 所：寝屋川市役所議会棟4階第一委員会室

出席委員：大束委員長、林田副委員長、藤田委員、森川委員、山崎委員、中林委員、榎並委員、新宅委員、吉永委員、鈴木委員、荒木委員、橋本委員
（欠席：濱田委員）

事務局：人権・男女共同参画課 松村次長兼課長、木場係長、井上

○委員長 議題1「若者と進める男女共同参画について」で、はじめに別紙1「令和3年度第4回男女共同参画審議会議事録の抜粋」について事務局説明願います。

○事務局 令和3年度第4回男女共同参画審議会での議事内容となっており、グループワークをA、Bのグループに分かれて行い、テーマ「若者と一緒に進める男女共同参画」について、今後の施策、立案の参考にしていくためとして、議論いたしました。

その概要といたしましては、本市男女共同参画推進活動の現状として、大学生などの若い人たちとの関わりが薄いため、若い人たちとの関わりをどのように作っていき、男女共同参画のまちづくりを推進していくのかということについて、議論、提案を行っていました。

その内容について、Aグループについては、4点にまとめております。

1点目、男女共同参画に関する世代間での考えの違いや内容といった現状の把握を行う。

2点目、若者の感覚に年長者が合わせていき、どのように変わればいいのか、各人が考察し、その内容を集約し、行政にボトムアップする。

3点目、これらの情報共有の場、機会を作り、若者から意見を上げてもらう。このような場を通して若者によるイベントの主催やサポートに回る事ができるリーダーに育てる。

4点目、これらを実現するためには教育が必要であることから、教育教材を作り、小中学校に働きかけていく。

続きまして、Bグループについては、7点にまとめております。

1点目、男女共同参画という言葉は分かりにくいので、それを払拭する。

2点目、幼児期からの意思決議が必要。教育するとともにということです。

3点目、教職員の世代間の考え方の違いを埋める。研修などを実施。

4点目、大学生、高校生にハッシュタグ、SNSで発信。全ての年齢層に

発信も必要。

5点目に、若者が主体性を持てるよう、ディベート、ディスカッションの場があるイベントの開催。

6点目、より若者たちに訴えられる体験型のイベントの開催、子どもの居場所づくり、お互いの立場のロールプレイ。

7点目、若者たちに主体性を持ってもらうために、若者守る大使などに任命し、若者主催のイベントで小中高生に対し、大学生が男女共同参画の話をします。以上です。

○委員長 別紙1について補足しますと、このプランを策定する際に、小中高大の児童生徒、学生の皆さんにアンケートを行い、その中で若い人たちの男女共同参画についての意識というものを、一体どのように高めていくのかということが、アンケートを見ての課題であったという風なことがあります。その形に応じてプランのほうを作成させていただきましたが、特にこの若者と一緒にとどのように男女共同参画を進めていくべきなのかということで、色々アイデアをいただくために、グループワークを行いました。

それでは、資料の別紙2「市内大学等一覧」につきまして、説明を願います。

○事務局 当該資料は、寝屋川市内の大学等の一覧でございますが、市内には摂南大学、大阪電気通信大学、大阪公立大学工業高等専門学校との3大学等があり、その学部等と学生数を記載させていただいております。

なお、摂南大学は枚方キャンパスもございますが、資料には寝屋川キャンパスの学生数を記載しております。

大阪電気通信大学は四條畷キャンパスがございますが、資料には同様に、寝屋川キャンパスの学生数を記載しております。

大阪公立大学工業高等専門学校は学年が5学年あり、各コースと学年ごとの生徒数を記載しております。

また、資料として提供いたしました理由として、若者と一緒に進める男女共同参画というテーマを踏まえ、まず、若者として大学生を対象に進めていければと考えていたことから、市内の大学などに通われている学生数等、少しでも大学等の状況を把握していくことが重要であると思われ、提供させていただきました。その中で、学部、学科等から見た中では、男女共同参画に直接関係しているものはないような状況になっております。以上です。

○委員長 説明がございましたが、特に、大学生に対してどのような働きかけができるのかというような観点から、こうした大学での状況というのを御説明させていただいたというところです。

それでは、別紙3「グループワークについて」説明願います。

○事務局 来年度の事業計画案として、若者への企画案について記載しております。内容につきまして、現時点での案ではございますが、セミナーの演題、内容、対象者、企画実施のタイミングを記載しておりますので、この案をもとに、若者、大学生を対象にしたセミナーを開催したいと考えております。

そこで、本日の次第にも記載しております、グループワークを行っていただき、この企画案についてや、その他違った形での若者と一緒に進める企画案がございましたら、それらについて議論をしていただき、提案をしていただけたらと思っております。

それでは、ただいまからグループに分かれたいと思いますので、添付資料にもありますように、机等、配席図のように移動していただきますようお願いいたします。

グループワークの時間については、40分程度で大丈夫でしょうか。

○委員長 はい。40分で大丈夫です。

○事務局 分かりました。その後、各グループの代表者に発表していただきたいと思っております。

○委員長 来年度、大学生に向けてどのようなことができるのかということをお考えいただき、例えば大学生を通じて、小中高の若者たちの意見を吸い上げるといような提案について、できれば具体的にこんな事をやってみたらどうだろうかという風な案を出していただけたらと思っております。

○Aグループ（15分間各自意見記入）

○委員長 それでは、まず私からさせていただきます。

何をするにしても、興味がある大学生を募る事が必要なので、例えば募り方として、大学生の集め方というので、大学の窓口がどこなのか把握する事や、大学に行ってどこの窓口が対応可能なのかを考える事、大学の窓口に行って何ができるのかを話し合うというような事、大学の人権講座の一つにして取り扱ってもらおうという風なこと。そこで興味のある学生に呼びかけを行うようなことがいいのではないかなと思いました。その大学生から中高生に働きかけてもらう事というので、ふらっとねやがわを利用してもらい、今の学生はSDGsとかを授業で取り扱っているのので、そのような事を若者たちで考える、何かワークショップをやってもらおうのいいのではないかと考えてみました。

○委員 若い人に対してはセミナーというより、自由に意見を聞く方がいい

いのではないかと思います。そこから、アルバイト学生のセクハラ、パワハラ問題など、皆さん興味あるのではないかと。それから、就職に関する、色々なジェンダー平等でない場合が多くあります。そういった事をこちらから色々お話を聞くのはいいのではないかと。

それから、賃金、働いてない方やこれから大学生が働こうと思ったら、賃金格差が何で起こっているのか、何であるのかというところをみんなで考えたらいいのではないのでしょうか。若い人の中には、結婚したら名字を何故変えないといけないのか、日本のジェンダー格差が何で遅れているのか、何で日本がこれだけ経済大国で進んでいるのに、何でジェンダー格差が日本は先進国で遅れているのかというような課題に対して疑問を持っているのではないかと思います。

○委員　私が書いたのは、学生たちが集まった後、どのように活動して広めていけばいいのかを考え、そのことについての内容が多くなってしまいましたが。今、トレンドワードみたいなもので、SDGs、これを付けるとすごくかっこよく、最先端みたいなので。でもこの中では、環境問題がすごく取り上げられていますが、貧困とか差別とかいうことも入っているのです。こちらの方はあまり焦点が当てられてないので、このワードを出して、この男女共同参画の目的、テーマ、差別みたいなことについて話してもらうということ。それで、何か関連の映画を上映した後、若者によるパネルディスカッション、大人の人のパネルディスカッションはよくありますが、若者主体の、若者が自由に意見を言い合える、そういった事を行えばいいのではないかと思います。

それと、いただいた資料に記載されている大学の学部を見たところ、電気通信大学は、ゲームメディア科とかあるので、その学生たちがゲームとかメディアのそういったソフトとか開発したものを使って啓発をお願いするのもいいのではないのでしょうか。

それともう1つ、医療健康科に一度見学に行ったことがあるのですが、体の不自由な人のサポートの機械とか、色々開発しているので、そういった各学科の中の特徴をアピールしてもらって、ここで発表してもらうようなこともいいのではないのでしょうか。以上です。

○委員　若者への企画ではなく、若者の企画にしたらどうかということで、市内3大学ありましたけれども、そこに興味を示すゼミがないか、一回地域連携センターにでも投げかけてみて、その興味を示すゼミを探してはどうでしょうか

あと、実際に事業所、役所でもいいと思うのですが、実際に行って、今働

いている人はどういう感じなのかとか、その辺の現状を知って、その上でセミナーテーマについて、学生からプレゼンを受けまして、テーマについて決めて、我々の所属団体や大学に呼びかけて実施するという若者企画で、また反省を踏まえて、次年度に要検討していくというような形を考えました。

○委員長　きれいに、円にしてまとまりましたね。

○委員　みんなそれぞれ分野が違っていいですね。

○委員長　6名集めて、ちょっとこういう風な事とこういう風な事とこういう風な事っていうような形でやっていったら。

○委員　意識調査について、世代間での考えが、どのように意識調査をするかなと思っておりまして。自分の経験になってしまいますが、おじいちゃんがどうも孫にプレゼントを贈りたくて、商品を買いに来られて、ラッピング包装してくださいって言われたので、ラッピングの包み紙の色がこれだけありますと、赤と緑と茶色を示した時に、男の子だから男の色と言われて、男の色って何だろうって。赤、緑、茶色の中から選んでいただくしかないのですが、男らしい色はどれだって。男らしい色がない。ないって言われて、どうしたらいいのだろうなど。

○委員　何でしょう。男らしいって。

○委員　結局、その方の意識の中では、赤、緑、茶色の中には男らしい色というのはないんですよ。

○委員　なのでそういった、無意識のところの意識のところ、差別であったり、男女比みたいなところがあるのだろうなと思うと、かなり根深くて、アンケートとか意識調査、必要ではありますけど、もう少し根源的なことをあぶり出して、その人に示してあげないと分からないのかなという体験をしたので、ちょっとこれはどう調査すればいいのかなというのが結構難しいところではないかと思えます。

あと、もう1つ、小中高、教育の教材を作ると書いてますが、作るための小学校、中学校への働きかけ、これは、子どもに教える前に、小学校の先生は、どのように考えているのかなと。小学校の先生はまだ比較的若い先生が多いのであれですが、これも私の体験で、私の娘が進学のことで、先生と話をしていたのですが、もともと県外で行きたいところが決まっていて、高校入った頃から言っていたのですが、先生としては大阪府内から集めた、先生が知っている所を何で受けないんだということで、結構先生と揉めて、ここに行きたいし、相手側とも話しをしているし、何回も見学に行っていると言えば、そうしたら先生知らんから、勝手にやってみたいな雰囲気と言われたので、何回もその履歴書を書いて、先生のところに持って行くと、このよう

な書き方じゃ受からない。でも先生はその就職先知らないですよとか、そういうやり取りがあったので、これまでのやり方であったり、これまでの流れというのに、少し違う事、異論を唱えると、そういう風に先生にされてしまうと、子どもたちにとってはしんどいのではないかと思いました。ですので、先生がどのように思っているかというのがかなり大きいのではないかと。小中学校に対しては特に思っているので、そのあたりがまず教材も何もいうところかなと思っています。

あと、若者主体のイベントというところで、寝屋川市の文化祭があって、いつも思う事なのですが、新しいイベントをぼんぼん立ち上げていくと、結局、薄まってしまって、何をやって、どこが主体で何のイベントなのかというのが分からなくなってくるというのを感じており、それであれば今あるイベントの中でどう考えていくかという方がいいのではないかと思います。小学校、学校の行事、学童の行事、子ども会の行事、地域の行事など、どこの祭りですかというのが毎週毎週あって。

○委員 秋は特に。

○委員 そうなんです。自分で子どもの世話をしているにもかかわらず分からなくなってしまうところがあって、そこを各部署に分かれて、全部繋がりがないままやるのではなく、寝屋川市全体で、何か目標を掲げた方が分かりやすいのではないかと。例えば、初本町公園と、市民会館が中心ですけど、例えば治水緑地とかまで入れて、寝屋川市全体回遊してもらうような形にしたり、そういうのもありではないのかなと。そこに例えば個人事業主のお店の人たちのところでスタンプラリーをやってみたり、そういうような形にして、今あるイベントをさらに濃くしていく。どんどん新しいイベントを立ち上げると、どうしても分かりづらくなってしまわないかと思ったので、この中で例えば若者に任す部分を作るとか、そういう方が特に秋は分かりやすいかなと思います。

○委員長 今日多分チラシが入っていましたが、いじめのところ、男女共同参画の講演もあるので。

○委員 あれも、昔は男女共同参画だけでやっていたものを、もう教育や、市長のいじめの対策についてなど、全部まとめた中的一部分。かえって、これが目立たないかなという部分もありますが、大きくなりました。

○委員長 でも一緒にやった方が、そこに色々な人が来るので、少し興味がなくても、やっているからちょっと見てみようかなとなるきっかけにはなります。

○委員 結局のところ、みんなその興味が薄いからこうなっているのでは

って、それを何のきっかけで興味を持ってもらうかっていうところが難しいのだろうなと思って。みんながみんな、興味を持っている事はないので。

○委員 興味は人によって違う。だからもう少し、何か若者にそういうことを振っていったら、そういうこともやってくれるのではないのかなと。

○委員 新たな気づきも、彼らは持っているでしょうし。

○委員 だから舞台を用意するのは大人の方なのだろうなと思います。

○委員 若者が、自分達がこうしたいんだって、ごちゃごちゃ言われずに、自分達が考えてやれる舞台があるのだから、上からセミナーやとか言われて、興味ないことをやるのもなって。

○委員 ただただ寝に行くみたいな感じになってしまったら元も子もないですし。

○委員 参加しているだけでなく。だから本当に興味あることが何なのかというところですね。

○委員 興味あることは本当にそれぞれ違うんです。発表の場として、その場を用意するだけでも十分じゃないかなと。

○委員 まず、彼らに呼びかけが大事かなと。続きまして、その発掘していく若者を。そしてもう彼らに主体的に関わってもらって発信する。その発信先は小中高とか。小中高生の発掘。

○委員 結局のところ、告知の問題かなと。

○委員長 どういう風にして集めるのかという事も、あるのかなとは思いますが。

○委員 余談になりますが、今、摂南大学のある先生がすごい寝屋川市社会福祉協議会とか、市民活動センターの活動、それから地域のイベントに関わってくださっていて、彼らの部隊が結構動きますので、力になるのではないかと思います。

○委員長 摂南大の先生にそんな人がいるのですね。

○委員 はい。今までに初めてなぐらい、その地域活動に取り組んでおられます。

○委員長 どこにこんな話を持って行くのかというのもあると思うのです。

○委員 学校の中に、ジェンダーのことに関わって、何か講義している先生はいると思うのですが。

○委員長 各大学でそういったジェンダー平等については、話はされている先生はいらっしゃると思うので、その先生をちょっと探すというのも。

○委員 持っている名刺を使って、その方にそういう人いませんか。

○委員 その先生が呼びかけたら来る学生もいる可能性もありますね。

○委員　やはりゼミでこう、やっていただかないと、なかなか。結構学生って、単位がつくから動くっていう人多いので、授業に持って行けるかどうか。

○委員長　では少し纏めて、報告するという事になっていますので、内容や、こういう風にやり方とかを分けていきましょう。

○（プレゼン資料作成）

○Bグループ（15分間各自意見記入）

○副委員長　お一人ずつ、御自身の考えたことを発表しながら、適当に置いていくということにしたいと思います。まずは、私のほうからですね。

まずは、大学生へのってありましたけれども、やはり大学生自身に主体になっていただくような企画でない面白くないのかなど。なので、もうゼロベースから企画そのものを大学生にお願いするというと、主体性を持って取り組んでいただけるのではないかなと思います。

先ほど話していたのですが、この男女共同参画って、不人気な言葉でして。

○委員　そうなんです。

○副委員長　この言葉を聞いただけで、ああ、もう全然面白くない、関心ない、関わりたくないと思ってしまう大学生がいるのが現状であると。なので、やはりそういう人たちにも入りやすい、ああ、面白そうだなと思ってもらえる入り口の工夫が要るのかなと思います。

入り口を色々考えたのですが、例えば、面白そうな人、例えばTwitterとかで話題になっているような人や漫画家、そういった方たちのゲストトークとか、あるいはドキュメント等の映画を見せるとか、そのような形で、まあこれなら聞いてもいいかな、見てもいいかなってような入り口を設けてあげるといいのかなというのと、まあ実際、本音ではっきり言ってこう興味がないとか、はっきり言って、こんな事しても何もならないと思っている人、多くいらっしゃると思うので、本当に大学生が今、心の中で思っている本音みたいなものを、どうやって聞き出すのかという問題もあります。トークの場というのがあればいいのかなど。企画といっても丸投げというのは少々問題があると思いますので、何か最終的に政策をしてもらいたい感じだと、例えば、私も大学で学生に最後に映像を作ってもらいたいことですね。カメラなんか撮ったこともない人でも、台本を書いたり、ストーリーを練ったり、女優さんを演じる人とか、様々いて、成果物みたいなものがあると面白いと思っただけののかなど。やはりリーダーになるような、企画の候補になってくれるような人が欲しくて、それを一から作るのもいいのかもしれませんが、各大学には色々なサークルがありますので、そういう事に適した人たちというのがいらっしゃるの、そこを出発点にしてもいいのかなという風に思いました。やっぱり大学生は就活と絡めるとか、そういう感じでやっていただくと。あるいは、その大学生と小学生とか、大学生と

中高生とかいう感じで、絡めたらいいし、あと教育を担ってくださっている現場の先生方というのは、やはり上手く巻き込めたらいいなと思いますし、大学って留学生がいらっしゃるので、これはもう、かなり違う視点をお持ちですから、これまた巻き込んでいけたらいいのかなと。はい。以上です。

○委員 課の名前は分からないのですが、そこが窓口になっているというのが間違いなくて。先日、授業中にリアルタイムで学生さんにアンケートを取って見たんです。男女共同参画って分かりにくいかな、分かりやすいかな、どちらでもないという3択で行った結果、男女共同参画は6割が分かりにくいで、参画という言葉、どうなのって聞いたら7割が分からないと言っており、ジェンダー平等の方がピンとくると言うのがすごく多かったので、やっぱり言葉、ワードってすごく大事だなと思っています。

参加者を集めてもらい、行政と組んで何かを行うというのは、うちの大学でもやっていて、こういう感じで行っているのです。そうなのかなという感じです。そこで、参加者を募るのですが、その時に、大学によったら、一般教養でジェンダー論とか、人権に絡んでいる授業があるのであれば、多分その先生が、担当になるのかなと。一般教養としてない大学もあるので、もしなければ、入り口だけをやってあげればいいのかと。もう学生で考えてくれるのではないかと思っていて、副委員長が言われたように、ジェンダー論だから授業の最後に、小論文を書かせるいのですが、その時に、ジェンダーの話全部やって、政策考えてくれればやると、もう突拍子もなく面白い事ができて、やはり年代で考えている事が違って、面白くて、なかなか実行はできませんが、どこかでフィードバックできたらいいなとは思っております。

○委員 どんなものが出てくるのですか。

○委員 もうトイレの改造とか。ジェンダー論ですけど、LGBT的な。男子トイレ女子トイレ、まあ名前ついていてもいいけれど、男子トイレは全部個室にするとか。

○委員 それはありですね。

○委員 それに、全部改造。幼稚園、保育所から全部改造していくとか、何かそう突拍子もないような、例えばそのような案とか、制服全部変えろとか。そういう風な、男女に捉われないというところから入っていくという考え方。

○副委員長 日常の暮らしですね。何を着るかとか。

○委員 だからもう自分のアイデンティティーの問題という風に最終的には捉える子が多いのと、まだ社会に出てないので、どのような差別があるのかというのが分からないというのがあるので、そこについてはやはり弱いという点がありますね。

○委員 実感としてないですから。

○委員 出産とか育児という意見はないですね。ただ自分が家族の中で何か不公平というのが、女子大なので基本的に女性目線になるのですが、弟は塾に行かせてもらっていたとか。

○副委員長 言いますね。私、お金かけてもらってないですみたいな。

○委員 そうなんです。

○委員 今もそうなんですわね。

○副委員長 親は、いや、あなたは賢かったから、この子は勉強が苦手だからと言われますが、いやいや、私が女だからみたいわ。

○委員 弟とお兄ちゃんは3つ行っていたのに、私1個とか、そういう風なことを言います。あと多いのはやはりお手伝いなど、家の中ですごく不利益という気持ちが多かったということを書いてくれるので、まあ実感的にそういうところから言ってあげると、最終的にジェンダー平等がしっくりくるみたいですね。

○副委員長 男性は男性で別の何かを抱えていると思いますわね。親に大学行けっていう風に言われたとかね。

○委員 謎のプレッシャーですね。

○委員 だからもう、それらを書かせてみると、止まらないですよ。

○委員 私は、理事会等で、地域で色々な事をさせていただいているのですが、そういったところに、最初は男性が中心になって色々な活動を行っていましたが、最近は、女性が中心になって、色々な事を提案行うというのが普通になっております。要するに、そういった自治会というような小さな組織の中に、女性が入ってくることに何の違和感もないと言いますか。男性も、女性に入らせていただいていることについては、女性とか男性とか関係なく、みんな地域のことで当たり前じゃないかというような感覚でやっております。なので、私は特に、何でそういうような男女共同ってように改めて言わないといけないのだろうかという気がします。だから、みんなでワアッとやったらいいのではないかと思います。

○委員 最終的には、それが理想であると思いますが、恐らく実態がそうではありませんので。

○委員 多分そのようになっているのかもしれませんが、みんな集まった時に、何の違和感もないのではないかと感じておりました。男だから、そのよう感じるのかもしれませんが。

○委員 そういふところなのかなと思います。多分、今の若い子でもやはり、女性であることによって損をしているという風を感じている人たちがいて、でもそれは多分逆サイドから見ると、そういう風に見えていなかったり、それを聞いて初めて、そういう風を感じているのだと。でも逆もしかりだと思います。だからこそ、立場違えば見えないところがあって、そこが、その見えていく中で、どう解消して最終的に本当にお互いが女子だから損している、男子だから損しているとか思わなくていいような形になっていくというのが一番いい事だと思うのです。現状は多分あるのはあるのだと思います。だから男女共同参画ということをやったっていかないと、問題があるから多分、解消しようというものが未だに残っているという事です。

○副委員長 分かっておられるところというのは、上手く女性が参画できている理想的な場だと思いますが、少し場所を変えると、全くいらっしやらない。あるいは逆に、これは女の仕事だから、女だけでいいみたいな感じで、

男性がいないような集団みたいなものもあります。それはそれでまた問題で、女の仕事だから男はこんなものにはタッチしないみたいな。そういった偏りのようなものを、是正していくための、活動なのですから。

○委員 付け加えさせていただくと、私の地域も、今までは自治会の色々な仕事は男がやるものだというので、そういった風なものもありました。ですが今は、ほとんど女性の方が、中心となってやっています。

○委員 そのように変わってきているのでしょうか。

○副委員長 では、自治会長とかも、女性がいらっしゃるのですね。

○委員 自治会会長は色んなところへ行かないといけないからということで男性がやっています。

○委員 そこです。

○委員 何故かPTA会長は絶対男性になっています。

○副委員長 PTAはほとんどが女性であるのに、会長は男性。

○委員 何かがおかしいですね。

○委員 どちらかと言えば、働かなければならない、お金稼がなければならぬ、泣いてはいけないとか。多分、男の子、つらいですよ。そんな事言われるのが。

○委員 保育園でも男の子はかっこよく、女の子はかわいく踊りますと生活発表会の時に言っているの。すごく違和感があって、男の子も女の子もかっこよくかわいく踊ったらいいのに、男の子はかっこよく、女の子はかわいく踊りますって言って、振りつけも違ったりします。何故分けるのだろうか。そこは勝手にこちら側が男女で分けてしまっていて、子どもたちに自分で好きなもの選ばせていないんですよ、多分。それが、内面化されていってしまうというか。

○副委員長 それが当たり前かなっていう。

○委員 だから昔は、それで良かったと思います。女の子はかわいいよねって、男の子は黒のランドセルで、良かったのですが、それは言われ続けてきていて。それは、本当は自分の選びたいものを選んでないのと同じなのではないかって。例えば本当はリンゴが好きだけど、みんなにミカンと言われたから、ミカンが好きだったのかなみたいな。そのような感じの事なので、良いとか悪いとかという話ではないのです。

○副委員長 私は女だから、これは選べないという事をなくしていきたいという事です。

○委員 難しい話ではないし、仰っていることも当たり前の話だと思うので。

○副委員長 もう今はもう随分変わってきているところもあると。これを推し進めていきたいという事です。

○委員 そうですね。

○副委員長 若い人は特に本当に、その辺がフラットになってきているので、中心になってどんどん進めていただけたらと思います。

○委員 ジェンダーフェスタというのをした際に、弁護士会是人権人権と

言いまして。それは一応そういった活動をしている団体なので、人権活動って言うのですが、弁護士も含め、人権という単語って、少し堅くて。人権シンポジウムとか誰も来ないのです。でも一般の人に、そういう事を楽しく学んでもらいたいというので、人権フェスタというのを年に2回やっており、企画としては、例えば劇をしたり、子どもたちに作ってもらう。例えば、うちわ作りで、人権の標語が書いてあるとか。だから、あくまで楽しいフェスティバルですよ。その中に、ちょっと、あらゆるところに人権要素混ざっていますみたいな、そういうのを。来てもらったら風船あげるよとか、そういう少し楽しいものにして、来てもらった時にちょっときっかけになるようなものができればいいかなと。それを大学生に内容を企画してもらう形で、プラットフォームは用意してあげるとというのが1つ。で、男女共同参画と言ってしまうと来ない気がして。

○委員 来ないですね。

○委員 企画段階では、それこそ学生課にお願いとか、きちんと方向性は固めてあげる形にしたら。ただ後は、楽しくという感じで門戸を広げるといふか。堅くて真面目にしてしまうと、余計一部の人だけになってしまいます。フェニズム活動みたいな感じの方向性になってくると、男性寄りづらいですし。

○副委員長 そう。男性をどう呼び込むかですね。

○委員 楽しそうだから参加しようかなみたいな、そういう風に思ってもらえる事が大事かなと思っていて、寝屋川市は男性が多そうな大学が多いので。でも自分たちにやってもらうことが難しそうであれば学祭とかに、大学生で興味がある子たちにブースを出させていただいて。そこで例えば電通大とかは割と男子が多いのではないかなと思うのですが、そこに他大学の生徒も含め、ジェンダーに興味があるような方を連れて来て、ブースを出してもらうとかいう形。

○副委員長 ステージ使わせてもらってもいいですよ。

○委員 何か楽しい場で、そんなものがあるんだなというのが、こっちの方が入りやすいかなと思いました。全然知らない、興味ない人も、目に触れる機会を作る。

○副委員長 何なら一緒に焼きそば作ったりしてもいいと思います。

○委員 そういうものでいいと思うのです。作るのは女子じゃなくて一緒に作るとか、そういうことが一番なんか大事なのかなと。

○副委員長 現実的にあり得ると思います。やってくれると思います。

○委員 そういった方が、例えば、完全に私の思い込みではありますが、電通とか、高専とか、やはり男子ばかりなので、そのままいくと女子の観点到に触れることがないままいくので、そこで何か一緒にやったりとかするだけで、違うのではないかと。そこで男の子ってつらいよねみたいなことも、話せばいいのかなと。

○委員 あります。今の大学生の男の子って、お金、僕ばかり払わされているみたいなこと言いますし。

- 委員 何で男性が稼がないといけないのかみたいな。
- 委員 御飯食べにいったら、いつも僕出してんねんって、まあよく学生から聞きます。
- 委員 当然出すものみたいな。
- 委員 何かそういう小さいところ。
- 副委員長 可能であれば、複数の大学の横の繋がりみたいなものができたら、いいですね。
- 委員 私もシンプルですが、まず原案のプランで、企画案で何かセミナーを実施って書いていたので、どうかなあと思っていて。本当に学祭とか、お芝居とか劇とか、見て面白い感じで。先ほどの映像というのを基本に、確かにお芝居は、その場でしかできないけれど、映像になれば様々な場面で使い回しができるのでいいと思うのと、もちろん大学生の方に脚本とか全部任せてやっていただくのもいいなと思っていて。今と昔の違いみたいな感じで、昔はこうでしたよねとか、ファッションで女の子は赤みたいなのもそうですし。
- 委員 習慣も含め、お手伝いしなさいとか、先ほどの塾の話とか、身近なことを絡めながら、昔こうでしたよね、今は若干こうなっていますが、本当はこうなるのが理想ですよというのを混ぜ込んだらいいのではないかなと思っていて。呼びかけ方法も何か大学にお願いに上がることはもちろんそうなのですが、当たり前にもうSNSとか。継続性というところも、2年に1回だと間が空き過ぎるので、こういったジェンダーフェスタや学祭、毎年あるのであれば、毎年していきたいなと思います。
- 副委員長 一発だけ打ち上げて終わりっていうのだと駄目ですから。
- 委員 その後、小中学生とかにも見てもらったりするのであれば、その場合は映像ではなく、こういうお芝居の方を見せると言うのもありますし、あと大学生って割とジェンダーフリーの意識が少しづつ高まっていると思うので、本当の問題点は、私たち世代ではないかと。
- 委員 上の世代なので、できたら大学なのだけれど、学祭とかであれば親世代も来ることもあると思うので、親も見て、今はこうなっているんだと分かってもらえるようなものもいいのではないかと思います。また、人手は要りますが、習慣ファッション会社での立場とか、ファッションショーのような感じもいいのではないかと思います。
- 委員 楽しそうですよね。
- 委員 女の子の子した80年代アイドルとか、今のアイドルとか。そういった経路は変わってきている、求められている像が変わってきているというのがあると。ジェンダーフリーだけではなく、興味として面白いなと思ってもらえるのではないかと思いますので、引きつける役割として、内容をそういった感じで放り込んでいいのではないのでしょうか。以上です。
- 委員 1つ、キーワードにしたのが、キャラバン隊いうものをキーワードにしました。男女共同参画という言葉がもう堅いので、ここの部分は気になっていた部分ではありますが、まずは今小学校で、子どもたちは教師から、

あるいは校長から話すよりも、やはり同世代、近くのお兄ちゃん、お姉ちゃんから話してもらう方が絶対にいいので、特に今の話にもありましたように、幼稚園や保育園、小さいうちからの意識というものが大事かなと思いますので、そういった意味では、大学生に各小学校や中学校を回っていただいて、そういった内容の話をしていただく機会を作っていただきたいなど。そのキャラバン隊が、学祭も含めた各校区、自治会も含め、PTA祭りなどにも来ていただいて、お話しでなくても楽しい事をやるというような感じでいきたいなどと思うのと、先ほどの話にもありましたように、教材が必要になってくると思うのです。何もなければ絶対みんなしませんし、やはり1つ柱になるような教材作りを大学生の視点で作っていただくことと、SNSを活用していただく。

近頃感じていることなのですが、男性の育児休業というものがありますが、私の勤めている学校で以前よりも多く取られていまして。1か月間だったのですが、まだ制度自体が成熟しておらず、それにより、その1か月の中に代わりの人が来なかったことがあります。

○委員 女性であれば代わりの方が来られるのですか。

○委員 女性でも期間が短い場合は来ることはありません。1年など長期になれば代わりの方が来られます。男性はというのはおかしい言い方ですが、短めに取ることが多くて。まだ取りづらいと言いますか。

○委員 取りにくさ、あります。

○委員 アンバランスを感じます。お互い助け合って、いいよいよと言って、次、僕取るから言とか言って、順番にそういった雰囲気になってきた事が凄く嬉しいなと思っています。

○副委員長 その現場の方でカバーし合わなくてはいけないというのは、本来はあってはいけないことで、権利ですから。きちんと制度的に代替の先生がいらっしゃるといのがもちろん理想ですが、なかなかそういうわけにもいかないですね。それに、カバーし合わなくてはいけないという事は、やはり理解が及ばない方は、どうしても思われるかもしれませんし。そういった問題も含めて、やはり継続性や波及効果、あるいはその小学校、中学校への教育の中にきちんと入っていけるような、そういった取組であればいい事なのですが、それでもあまり堅苦しく行ってしまうと、絶対に大学生は主体的に参加してくださらないので、まずは入り口の話で、それから主体的に何かを作ってもらい、それが何らかの継続性や持続性というのを踏めばいいという話になるのではないかと思います。

(以下プレゼン資料の作成)

○委員長 それでは、Bグループから発表をお願いします。

○委員 Bグループで議論をさせていただいた際に、私が最初に感じたのは、男女共同というのは、私の地域ではもう完全に男女共同参画が来ていると。それは何故かと言いますと、自治会の色々な活動の中で、男性と女性

が何ら違和感なく参加されていて、女性の方がおられなかったら、私の住んでいる地域の自治会が成り立たないという事なのです。もう随分、自然にそういう風になってきており、私のところの地域の皆さんは男女関係なく一緒に活動するというのは当たり前だという事で、そういった事を議論するという事もないと。男女共同参画というのは、自然に生まれてくるのが男女共同参画なのではないかと思いつつ、参加させていただきました。

内容の発表に関しましては副委員長からとなりますので、よろしくお願いします。

○委員 委員の住まれているような地域のように、理想的な地域がもしあるとするならば、そういった地域がどんどん増えていけばいいなという風に思います。

Bグループでは、やはり大学生にどう働きかけるかというよりは、大学生にどうやって主体的に取り組んでいただけるかということを中心に話し合いました。やはり大学という箱がありますので、学生課や、学部など、そういった形でまずは正式に働きかけるということが必要なのかなというふうに思っています。企画そのものをやっぱり大学生にお願いすると。ただ、ゼロベースで何でもやってくださいというのでは難しいので、例えばグループやサークル等がそれぞれの大学にあるはずなので、そういったものをまずきっかけにさせていただきたいのと、他の近隣の大学との関係性みたいなのも上手く築いていきながら、巻き込みながら進めていってもらえたらと思います。

その時に、例えばそもそもジェンダー平等というものを知っているのかどうかや、あるいはその本音で何か語ってもらえるような、身近なところで何が起きているのか、大学生の生の声を聞き取れるような、そのような形で進めていきたいなと思っています。

具体的な案としまして、実現性が高いと思われるものは、学祭への参加です。これは各大学がもう既に箱を用意してくれていますので、そこにブースを出すとか、あるいはそのステージを使わせてもらう等して、焼きそばを焼いたり、ファッションショーを行ったりしながら、昔と今のジェンダーに関する考え方の違いや、性別役割分業というものがどのような風になってきたのかとか、そういったものを例えばお芝居であったり、クイズ形式で楽しんでもらえるような企画というものをやっていく。要は男女共同参画という言葉はあまり使わず、何か楽しそうだなと思ってもらえるような形で、関心のない人も気軽に入ってもらえるような、そんな工夫をしていくと。ですので、やはりSNSとか、そういったものは積極的に使いたいなと思っています。

学祭への参加というのが現実的ではあるのですが、理想としてはジェンダ

一フェスタみたいなものを男女共同参画という言葉を使わずに、フェスタというような形で楽しんでいただけるようなものをできればいいなという風に考えています。

あるいは、映画やゲストトーク、そういった形で、この人の話なら聞いてみたい、こんな映画なら見てみたい、そういった軽い気持ちで入って来ることができるようにするのもいいと思います。

そして、せっかく行うのであれば、何か成果物を作ってくださいと。堅苦しいところだったら、例えばパンフレットとかあると思うのですが、例えば映像や、短いドキュメント等、物語や、そういったものを制作してもらう。そうすると、物を作る段階で、学生というのは非常に積極的に取り組んでいただけますから、そのような形で主体性も引き出せるのかなと。

それからもう一つ、例えば制作を実際に考えていただくと。寝屋川市の施策みたいなものを具体的に一から考えていただくみたいな感じで、何か形のあるものというのを作っていただけたいなと。

それから、大学生だけではなく、小学生と大学生とか、大学生と中高生との間でコラボも行いながら何かを作っていただけたいのかなと思います。

そして、一番重要なのは、例えばその学祭というのは1年に1回、ジェンダーフェスタというのも頻繁に行うのは難しいとは思いますが、それをどう続けていくか。継続性の問題と、周辺にどんな波及効果をもたらすか。影響をもたらしていくかというところもすごく重要なのではないかなと思います。

キャラバン隊というのがありまして、そういったものを作り、例えば大学生が小学校に行って、授業の一部を使わせてもらいながら、啓発活動をするとか、触れ合いをする等、そういったことを行う。あるいは、教科書とかパンフレットではなく、もっと楽しんでもらえるような教材の補助みたいなものを作って、それを継続的に小学校に配布や、プレゼンするというのをやっていければいいのかなと思います。以上です。

○(拍手)

○委員長　それでは、Aグループ発表をお願いします

○委員　まず実情というところで、世代間での調査をした方がいいのではないか、学校教員の意識等も調査してみてもいいのではないかとこの事です。また、普段からジェンダー格差や、賃金の問題、アルバイトでのセクハラ、そもそも何で結婚したら名字を変えないといけないのか等、そういった疑問を感じている方がいるのではないだろうかという話をしました。

大学への呼びかけというのを、皆さんの所属団体等々でお知り合いもいる

かと思うので、大学へ呼びかけてみて、興味を持っているゼミがないか、どこか窓口はないかと大学に呼びかけてみる。その上で、若者へ参加いただくのですが、若者への企画と、今日のテーマにもなっていました。そうではなく、若者の企画になるように考えていくべきではないのかということで、若者が中心になって考えて、実際にできるようなことを考えていくのはどうかということ、例えば若者と議員の語り場を行ってみてはどうか等の意見も出ました。

告知方法に関しても、広報に載せているだけだと、学生に発信届きませんので、色々考えていけないといけないということ、また、ふらっとねやがわの利用率が低いという意見もありましたので、ふらっとねやがわの利用も含めです。

既存にあるイベントとコラボしてやっていくとか、そのような形を利用して行っていけばどうかということ、こういう取組を単発で終わらすのではなく、次年度やるのであれば、次年度に生かし、予算を考えて繰り返していくことによって、よくなっていくのではないかというような意見でございました。以上です。

○(拍手)

○委員長 二つのグループに分かれて、色々意見をいただきましたけれども、大変事務局にとってみても参考になる意見が出てきたかなと思いますので、この意見を取りまとめさせていただいて、来年度、様々な活動でもっと多く行っていきたいというようなことですので、また改めまして、どういう風なことをやっていくのかということについて、審議会の中でも御提案をさせていただくという形になりますので、よろしく願いいたします。やはり大学生が企画するというような形で考えていただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、グループワークは以上になります。それでは、議題2「その他」事務局よりお願いします。

○事務局 議題2「その他」といたしまして、4点ございます。

まず、1点目は、第1回及び第2回男女共同参画審議会の議事録の件につきまして、お配りさせていただいておりますので御確認いただきたく思います。修正等がある場合は、11月22日(火)までに事務局へ御連絡いただきますようお願いいたします。なお、御連絡がない場合は、「修正はないもの」とさせていただきます、ホームページへアップさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2点目につきまして、次回の審議会の日程調整をさせていただきたいと存

じます。第4回男女共同参画審議会は、令和5年2月13日(月)、15日(水)及び17日(金)のいずれかの日程で開催したいと考えておりますので、審議会終了後に日程表を事務局まで御提出ください。お分かりにならない場合は、11月25日(金)までに事務局へ御提出をお願いいたします。

3点目につきまして、各委員の皆様には、委員報酬として請求書に氏名等の記載をお願いいたします。以上です。

○(退任委員の紹介及び挨拶)

○(配付チラシの説明)

○委員長　それでは、委員の皆様から何かございますでしょうか。

○委員　ふらっとねやがわのチラシに関して、Zoom配信はされないのでしょうか。Zoom配信は簡単にできるようになっているのですが、いずれのセミナーもとてもいい内容だとは思いますが、Zoom配信を行えばすごく沢山の方が見ることができるとは思うのですが、その辺は検討されていますでしょうか。

○事務局　現状では、Zoom配信は出来ていない状況ですが、Zoom配信ができる環境を整えるという事がまず必要になってくるかと思っておりますので、そのあたり、検討していきたいと思っております。以上です。

○委員　Zoom配信だけでなく、後日、講演を見られるという形もいいのではないかと思いますので、お願いします。

○事務局　そのことも含め、検討していきたいと思えます。

○委員長　委員の皆様からは、Zoom配信での同時配信やオンデマンドの対応という風なこともできるのではないかというようなことですので、よろしくお願いをしたいと思います。なかなか寝屋川市、Wi-Fi環境が整っていないというような状況がございますので、その点も含めて、予算のほうも獲得していただき、御対応いただけたらと思えますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、委員の皆様から、何か御報告、御案内等がありますでしょうか。特にないようですので、以上をもちまして、本日の会議は閉会といたします。